NEWS LETTER

Vol. 10

東北大学ナノテク融合技術支援センター ニュースレター

December. 2017

CENTER FOR INTEGRATED NANOTECHNOLOGY SUPPORT

センター長挨拶

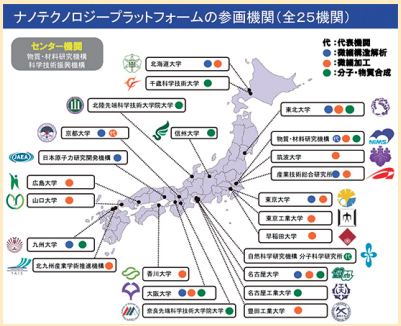
静けさに満ちた白銀の世界が、老若男女を問わず人々に夢を与えてくれる季節となってきましたが、皆様、いかがお過ごしでしょうか？

私どもナノテク融合技術支援センターでは世代を越えた様々な方々に科学技術の魅力をお伝えする活動も行っています。たとえば先日、開催されました顕微鏡体験教室では未就学児童から大人まで80名余りの方々が、日本屈指の顕微鏡メーカーが誇る卓上電子顕微鏡を用いて身の回りの小さな世界に歓喜の声をあげられてました。小さなペレットの中を忙しく泳ぐミジンコ、咲き乱れる美しい草木が放つ花粉の呈する様々なかたちに秘められた知恵、あるいは紙や鉛筆のからくりなど、たった100倍大きくするだけでそこに潜む自然の驚異を体験することができるのです。

科学教育の歴史をひも解くと19世紀の欧米にまで遡ることができます。当時、工業技術の発展は自然科学的な興味だけではなく人材育成という観点からもカリキュラムの標準化が必要とされ、各国の教育委員会では様々な試みがなされたのでした。同時に生涯教育やリカレント教育といったいわゆる学校機関を離れたインフォーマルな活動も盛んになってきました。近年ではアメリカ国立科学財団（NSF）が提唱するSTEM教育（Science, Technology, Engineering & Mathematics）に刺激を受け、教育機関だけでなく一般企業からも社会に対する貢献という立場から多様な形での科学を身近なものとする努力がなされています。

ナノテク融合技術支援センターではこのような企業と協力することで、セミナーから体験教室まで、様々なイベントを企画しています。科学技術が一部の専門家だけでなく、すべての人々の共有財産であることを感じていただければ、これにまさる喜びはありません。

文部科学省 ナノテクノロジープラットフォーム事業



最先端の研究設備を有する全国の大学、研究機関が一体となって設備の共用体制を構築することにより、ナノテクノロジー研究の更なる発展に寄与することを目的として平成24年からスタートした文部科学省のプロジェクトです。

センター機関の物質・材料研究機構と科学技術振興機構を核として、全国25機関が「微細構造解析」、「微細加工」、「分子・物質合成」という三つのプラットフォームを構成することにより、先端的、効率的な支援を分野横断体制で行っています。

ナノテクノロジープラットフォームHP
http://nanonet.mext.go.jp/